



1—揆記念館へと続く階段もいつもと違う雰囲気／2—一つ一つ手作りされた灯笼。作者の個性が光る／3—キャンドルに火を点ける子ども。地域の人の協力がイベント成功には不可欠／4—灯笼の綺麗さに写真を撮る来場者／5—住民と町並みとキャンドル、全てが一つとなって町の風景に溶け込む／6—まっすぐ並ぶキャンドルの灯り。どこまでも道が続いていくかのような錯覚／7—明星ヶ丘に作られた段ボールアートの作品。訪れた人たちは思わず感嘆の声をあげた



明星ヶ丘いきいき会会長  
城平 正文さん  
じょうひら まさふみ

平成23年、地域の活性化に尽力しようと地元の有志らで明星ヶ丘いきいき会発足。城平さんは平成25年より会長に就任した。現在17名の会員が所属。「四万十街道ひなまつり」「武左衛門ふる里まつり」などさまざまな地域イベントに貢献している。

## Interview

# 町並みを活用した地域おこし その挑戦は始まったばかり…

明星ヶ丘いきいき会では、地域おこしの一環として春に「四万十街道ひなまつり」を行っていただきます。「それ以外の季節でも地域おこしができないか」そうして始まったのが、夏に行う「ひよし星降るキャンドルナイト」でした。

火を扱う危険性や天候に左右されることなど不安はありましたが、「地域おこしのためなら」と会員の中に反対する人はいませんでした。

しかし、このイベントを初めて行った年、地元の人たちからさえもほとんど反響はありませんでした。そして、「どうしたら人が集まるのか」試行錯誤を繰り返す日々が始まったのです。

「キャンドルだけでは人は集まらない」そう考えた私たちは、戦争体験者による講演会やライブステージなどさまざまなことを行ってきました。

その結果、有り難いことに、現在、少しずつ来場者は増えてきています。

特に「鬼の里の夜神楽」を始めた昨年度から、反響が大きくなりましたね。また、今年には明星ヶ丘での段ボールアートの製作にも挑戦しました。

会員が高齢化となり、イベントの規模を広げることには正直、限界があると感じています。しかし、まだまだ発展途上のこのイベントを盛り上げるべく、毎年少しずつ新たなことに挑戦していきたいと考えています。